

前回委員会における需給・価格見通しと実績の対比

1. 前回の委員会（平成23年11月4日）で示した冬キャベツの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月下旬時点）	備考
冬キャベツ （11～3月）	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、主産地である愛知県及び神奈川県が前年をやや上回り、千葉県が前年並みで、全体としては前年をやや上回る見込み。 ・生育状況は、一部の県で台風等の影響を受けたものの、全体としては概ね順調。 ・出荷量は、作付面積がやや増加し、生育も概ね順調なことから、少なかった前年をかなり大きく上回り、平年を上回る見込み。 ・出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回る見込み。なお、年内の生育が前進した場合は、年明け以降、価格が前年を上回る可能性がある。 	<p>（入荷量）</p> <p>11月は、千葉産、神奈川産ともに好天により生育順調で潤沢な出荷となったことから、前年より大幅な入荷増となった。12月は、千葉産及び神奈川産は順調な出荷となったが、中・下旬の低温等の影響を受けて愛知産が入荷減となり、ほぼ前年並みの入荷となった。1月は、引き続き低温の影響で愛知産が入荷減となったが、千葉産及び神奈川産が小玉傾向ながら前年を上回って出荷されたため、前年よりかなり入荷増となった。2月は、低温の影響で全体的に小玉傾向ながら、愛知産及び千葉産が前年を上回って出荷されたため、前年よりかなり入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回り、平年をやや上回った。 （11月～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：108）</p> <p>（価格）</p> <p>11月は、前年より大幅な入荷増となったことから価格は前年を大幅に下回ったが、12月下旬以降、カット野菜等の加工・業務用需要が堅調だったこと等を背景に、価格は前年を上回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回った。 （11月～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：89）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

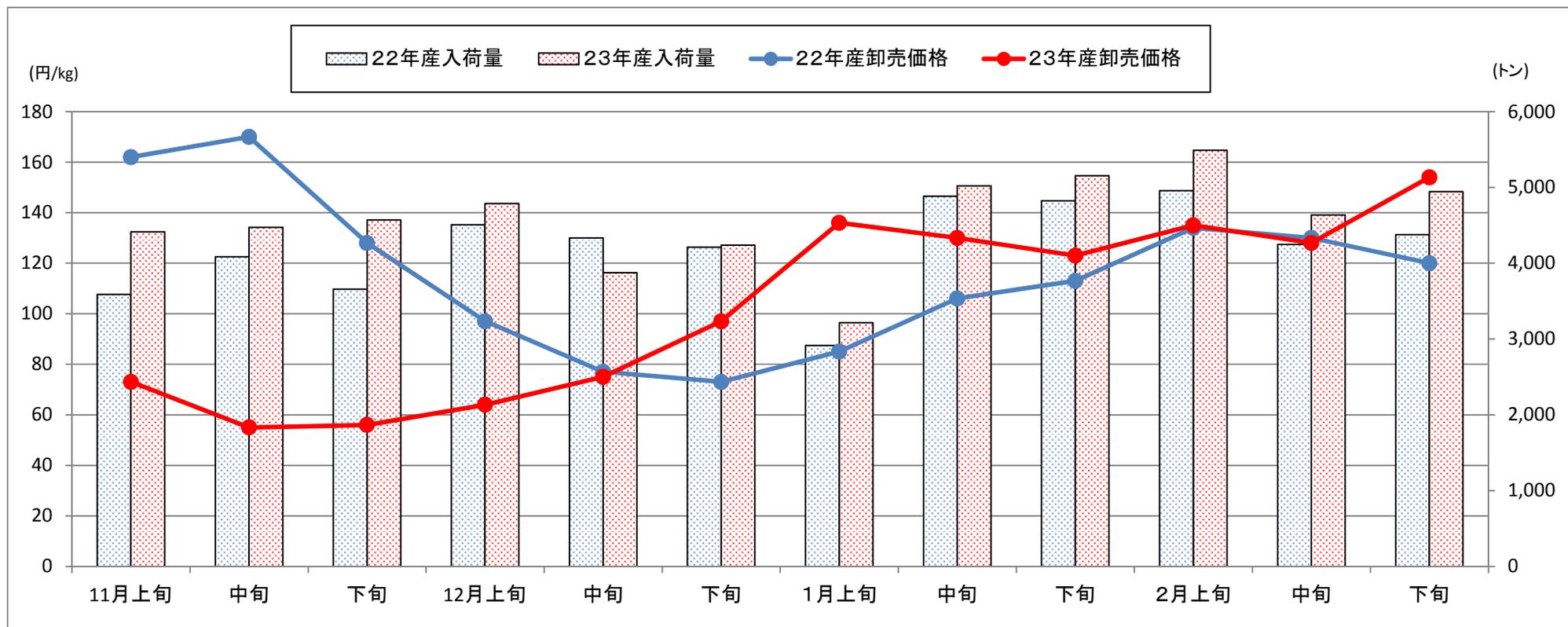
(参考1)

○23年産冬キャベツの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	123	110	125	106	89	101	110	103	107	111	109	113	108
	119			99			106			111			
価格	45	32	44	66	97	133	160	123	109	101	98	128	89
	40			94			124			109			

(参考2)

○23年産冬キャベツの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



2. 前回の委員会（平成23年11月4日）で示した秋冬だいこんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月下旬時点）	備考
<p>秋冬だいこん （10～3月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地である神奈川がやや増加、千葉及び徳島が前年並みであったものの、その他の産地が減少し、全体では前年をわずかに下回る見込み。 ・ 生育状況は、台風被害の影響も少なく、概ね順調。 ・ 出荷量は、作付面積がわずかに減少したものの、生育が概ね順調なことから、前年、平年ともに上回る見込み。 ・ 出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回る見込み。なお、年内の生育が前進した場合は、年明け以降、価格が前年を上回る可能性もある。 	<p>（入荷量）</p> <p>10月は、北海道産は台風の影響で腐敗が発生し、青森産は播種の遅れから、ともに入荷減となったが、後続産地の千葉産が生育順調で大幅な入荷増となったことから、前年をかなり上回る入荷量となった。11月は、千葉産及び神奈川産が順調な出荷であったため、前年よりやや入荷増となった。12月は、神奈川産は順調な出荷となったが、千葉産が低温の影響で出荷減となり、前年よりかなり入荷減となった。1月から2月にかけては、12月までに主産地が前進出荷となったことに加え、1月は、千葉産及び神奈川産が低温・少雨の影響で入荷減となり、前年よりやや少なめの入荷となり、2月は、千葉産及び神奈川産が低温の影響で入荷減となったものの、他産地の出荷が好調だったことから前年並みの入荷量となった。</p> <p>期間全体としては、前年並みで、平年をわずかに下回った。 （10月～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：100）</p> <p>（価格）</p> <p>大幅な入荷減となった10月上旬は高値となったものの、その後は、入荷増とともに11月まで価格は下落基調となったが、12月中旬からは入荷減の影響もあって、上昇基調となり、12月下旬以降は、前年を大幅に上回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年をやや上回った。 （10月～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：105）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

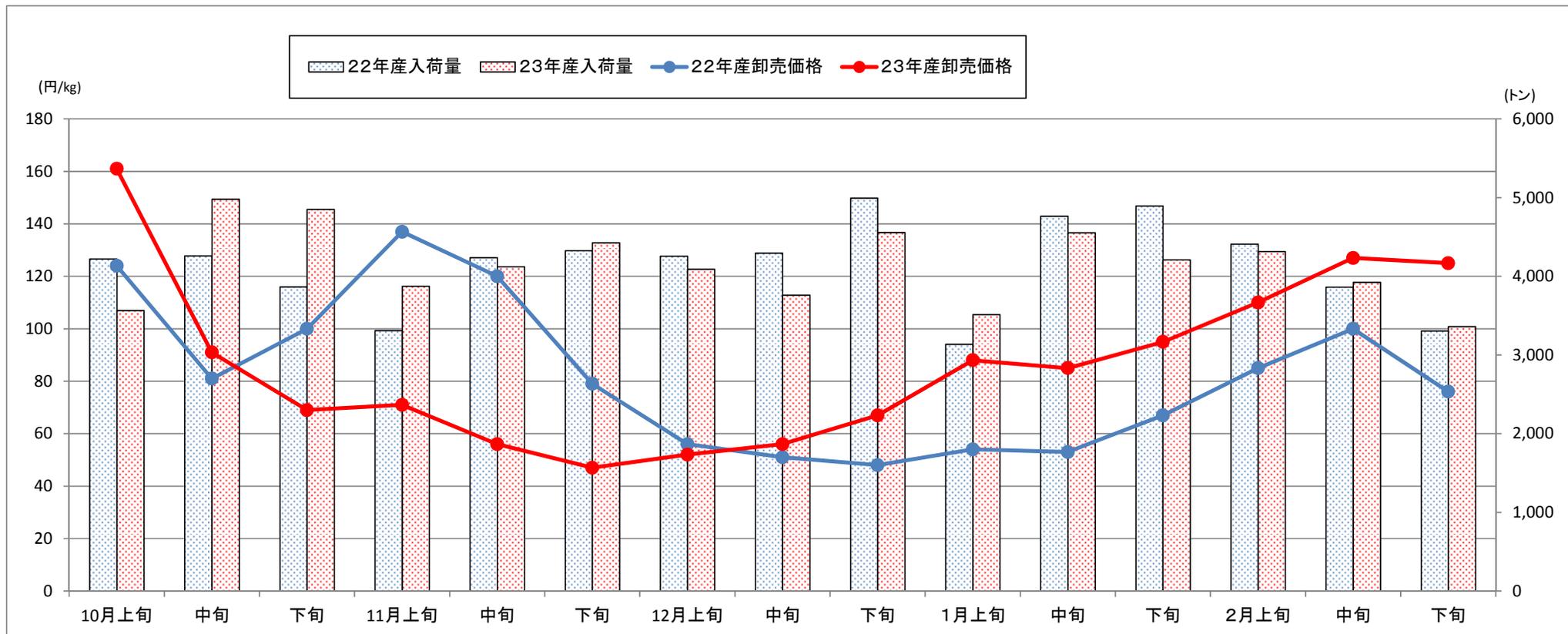
(参考1)

○23年産秋冬だいこんの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	84	117	125	117	97	102	96	88	91	112	96	86	98	102	102	100
	109			105			92			96			100			
価格	130	112	69	52	47	59	93	110	140	163	160	142	129	127	164	105
	100			53			116			153			138			

(参考2)

○23年産秋冬だいこんの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



3. 前回の委員会（平成23年11月4日）で示したたまねぎの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月下旬時点）	備 考
<p>たまねぎ (11～4月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地である北海道の一部地域で雹害による廃耕があったことから前年をやや下回る見込み。 ・ 生育状況は、産地や作型毎によってばらつきはあるが、全体としては前年よりは順調。 ・ 出荷量は、作付面積がやや減少したものの、生育が不作だった前年より順調なことから、少なかった前年をやや上回るものの、平年との比較では大幅に下回る見込み。 ・ 出荷量が不作の前年を上回ることから、価格は、前年を下回るものの、平年比では上回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>11月は、台風や長雨で主産地の北海道産の収穫が遅れたことから、前年よりかなり入荷減となった。12月以降は、北海道産が順調な出荷となり、不作であった前年よりかなり入荷増となり、1月から2月にかけては前年より大幅な入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、不作であった前年をかなり上回り、平年をやや上回った。</p> <p>(11月～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：111)</p> <p>(価格)</p> <p>価格は期間を通じて高値であった前年を大幅に下回り、平年もかなり下回った。小玉の比率が高く、安値の要因ともなった。</p> <p>(11月～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：66)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

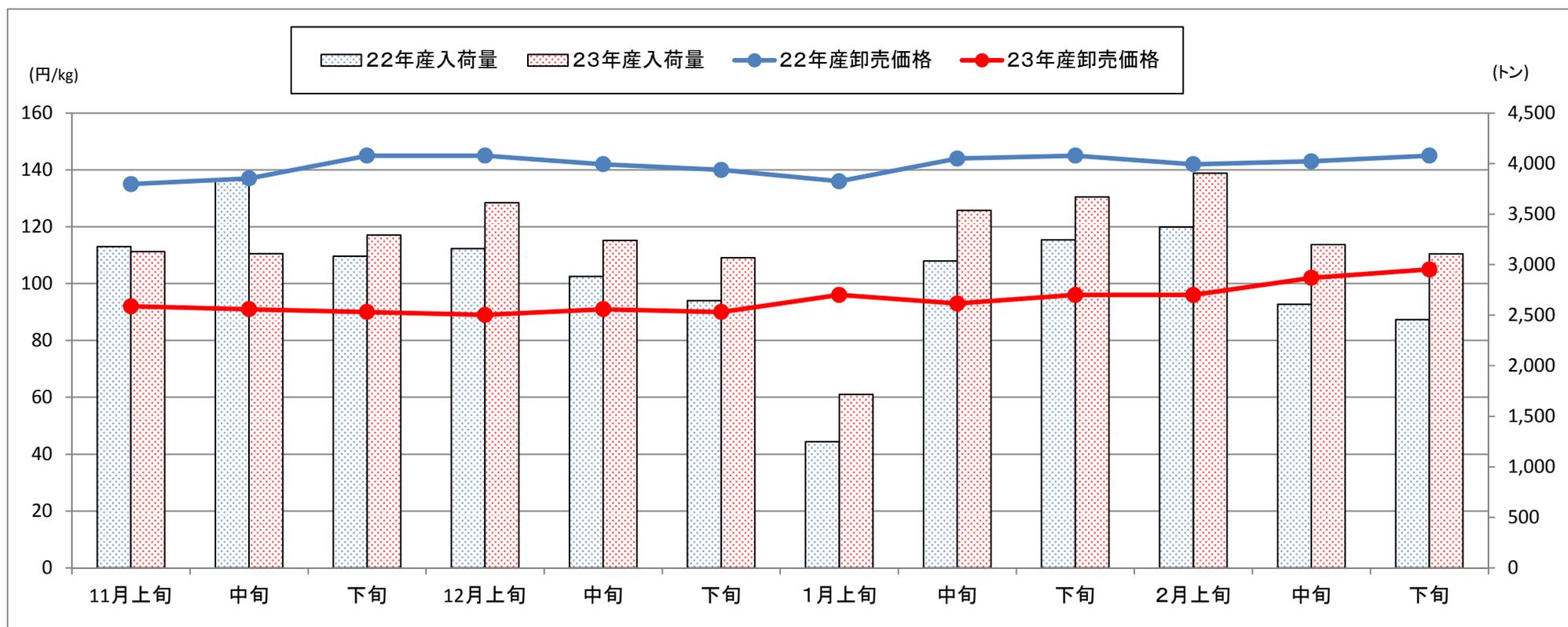
(参考1)

○23年産たまねぎの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	98	81	107	114	112	116	137	117	113	116	123	126	111
	94			114			119			121			
価格	68	66	62	61	64	64	71	65	66	68	71	72	66
	65			63			66			70			

(参考2)

○23年産たまねぎの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



4. 前回の委員会（平成23年11月4日）で示した冬にんじんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月下旬時点）	備考
<p>冬にんじん （11～3月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、主産地である千葉及び長崎で前年をわずかに上回るものの、愛知で前年をかなり下回り、全体では前年並みとなる見込み。 ・ 生育状況は、台風等の天候不良により若干の遅れが見られるものの概ね順調。 ・ 出荷量は、作付面積が前年並みで、生育も主力の千葉産が順調なことから、前年、平年ともに上回る見込み。 ・ 出荷量が不作の前年を大幅に上回ることから、価格は、高かった前年を大きく下回り、平年並みとなる見込み。なお、加工・業務用野菜の国産回帰の動きもみられる。 	<p>（入荷量）</p> <p>11月は、北海道産が9月の台風等による降雨の影響で正品率が悪く、出荷減となったが、千葉産が好天により出荷が順調であったため、前年よりかなり入荷増となった。12月から1月にかけては、千葉産及び埼玉産ともに生育良好であったため、前年よりやや入荷増となり、2月は、前年よりかなり入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、不作であった前年をかなり上回り、平年をやや下回った。生育初期に天候不順となったが、大きなダメージにはならなかった。</p> <p>（11月～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：106）</p> <p>（価格）</p> <p>11月から2月にかけては、昨年を下回る入荷量となった時期もあるものの、概ね前年を上回る入荷量となったことから、価格は高値であった前年を大幅に下回り、ほぼ平年並みであった。</p> <p>（11月～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：72）</p>	

注) 「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

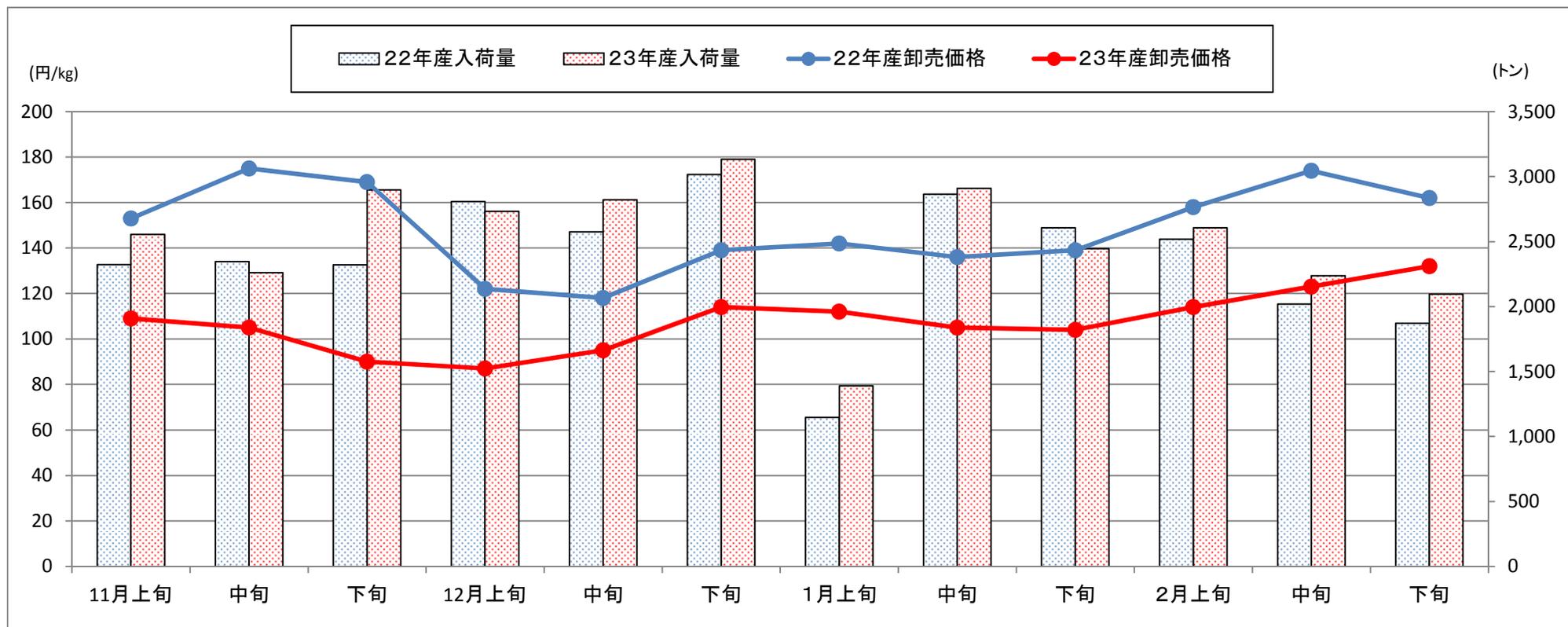
(参考1)

○23年産冬にんじんの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	110	96	125	97	110	104	121	102	94	103	111	112	106
	110			103			102			108			
価格	71	60	53	71	81	82	79	77	75	72	71	81	72
	61			78			77			74			

(参考2)

○ 23年産冬にんじんの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



5. 前回の委員会（平成23年11月4日）で示した秋冬はくさいの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月下旬時点）	備考
<p>秋冬はくさい （10～3月）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、愛知が前年を下回るものの、茨城及び兵庫が前年並みとなり、全体では前年並みとなる見込み。 ・ 生育状況は、台風の影響等により、葉の損傷や播種・定植の遅れが見られるものの、10月の好天により回復する見込み。 ・ 出荷量は、作付面積が前年並みで、台風の影響等により葉の損傷や播種・定植の遅れが見られるものの、10月の好天により生育が回復傾向にあり、前年、平年ともに上回る見込み。 ・ 出荷量が前年を上回ることから、価格は、今後の天候にもよるが、前年をやや下回る見込み。特に、気温が高めに推移すれば、需要の減少と出荷量の増加から、価格はさらに下落する可能性がある。 	<p>（入荷量）</p> <p>10月は、後続産地の茨城産の生育は順調であったものの、9月の台風等の影響を受けた主産地の長野産が入荷減となったため、前年をかなり下回る入荷量となった。11月は、長野産の出荷が回復し、茨城産の生育は順調であったが入荷の多かった前年を下回ったことから、前年よりやや入荷減となった。12月は、茨城産の出荷が順調であったことから、ほぼ前年並みの入荷となった。1月は、茨城産の出荷が順調であったことから入荷量は前年をかなり上回り、2月は、茨城産が前年並みで、群馬産及び兵庫産の出荷が順調であったため、前年よりかなり入荷増となった。</p> <p>期間全体としては前年並みで、平年をわずかに上回った。 （10月～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：100）</p> <p>（価格）</p> <p>10月は、上・中旬が長野産の不作を受けて価格は前年を大幅に上回って推移したが、下旬は、長野産の出荷回復と茨城産の出荷が順調であったため、価格は前年より大幅に下落した。11月は、前年より入荷減となったものの、気温が高くて鍋物需要が減退したこと等から価格が低迷し、12月も安値傾向となった。1月以降は、寒波の影響から鍋物需要が堅調なこともあり、価格はほぼ前年を上回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり下回った。 （10月～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：90）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

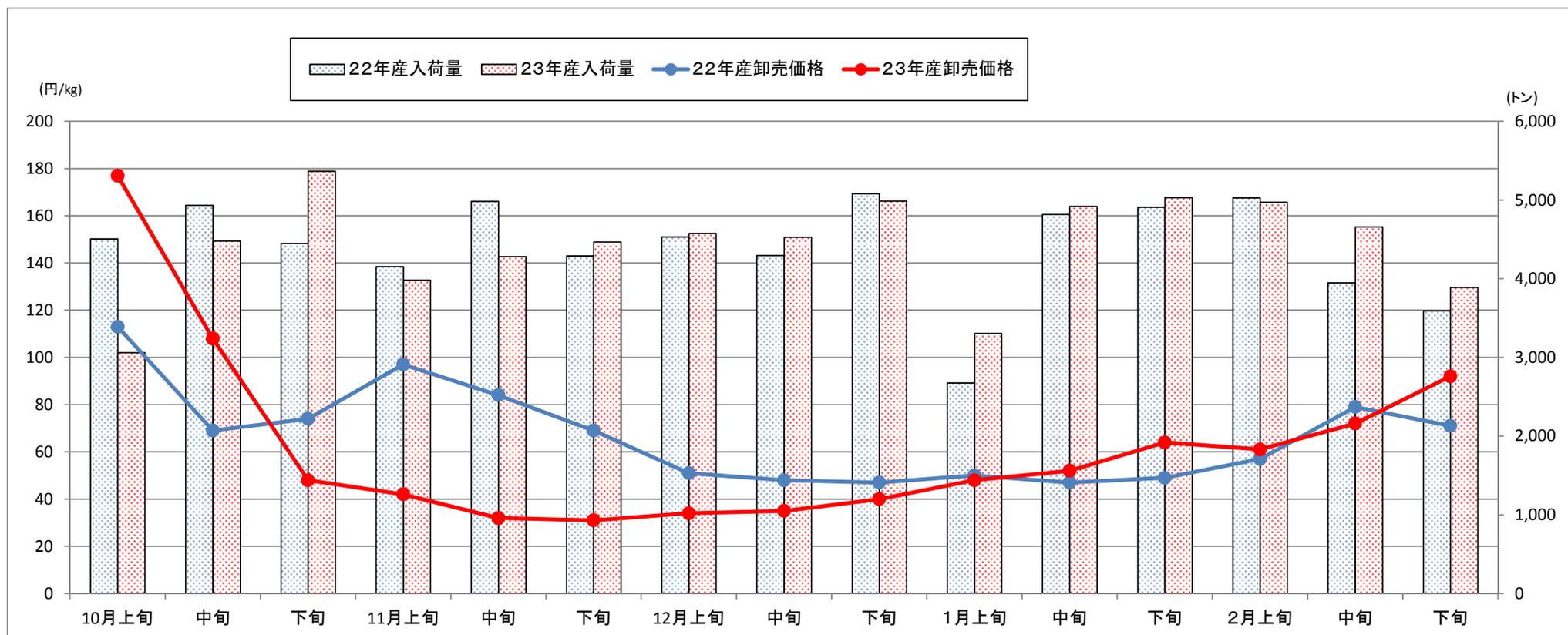
(参考1)

○23年産秋冬はくさいの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	68	91	121	96	86	104	101	105	98	124	102	102	99	118	108	100
	93			95			101			107			107			
価格	157	157	65	43	38	45	67	73	85	96	111	131	107	91	130	90
	116			42			75			117			109			

(参考2)

○23年産秋冬はくさいの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



6. 前回の委員会（平成23年11月4日）で示した冬レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月下旬時点）	備考
冬レタス （11～3月）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、香川が前年並みであるが、茨城、静岡、兵庫等が前年を下回り、全体では前年をわずかに下回る見込み。 ・ 生育状況は、兵庫、香川で台風の影響による生育に遅れが見られるものの、全体としては大きな影響はない模様。 ・ 出荷量は、作付面積がわずかに前年を下回り、台風の影響により、一部産地で生育遅れが見られるものの、全体としては前年をやや上回り、平年をわずかに上回る見込み。ただし、1～2月には平年を下回ることもある。 ・ 出荷量が前年をやや上回るものの、価格は、前年並みとなる見込み。ただし、1月から2月にかけては出荷量が減少し、価格が平年を上回る可能性がある。 	<p>（入荷量）</p> <p>11月は、茨城産が好天の影響により生育順調で、潤沢な出荷となったことから前年より大幅な入荷増となった。12月は、兵庫産及び香川産が順調な出荷となったが、静岡産が定植時の高温の影響を受けて正品率が悪く入荷減となったことから、前年をかなり下回る入荷量となった。1月は、静岡産が年末からの低温の影響で小玉傾向であったものの、不作であった前年より入荷増となったことから、前年をかなり上回る入荷量となった。2月は、静岡産が低温・少雨の影響で入荷減となったことから、不作であった前年よりわずかに入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年をやや上回り、平年をわずかに下回った。 （11月～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比：104）</p> <p>（価格）</p> <p>11月は、大幅な入荷増のため、価格は前年を大幅に下回ったが、12月は、入荷減から価格は上昇基調となり、前年を大幅に上回った。1月以降は、入荷量が不作であった前年を概ね上回ったものの、平年を下回って推移し、また、加工・業務用需要が堅調な中、台湾産も不作で手当できなかったこと等から、価格は前年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年も大幅に上回った。 （11月～2月中旬の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比：94）</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

○23年産冬レタスの入荷量と価格の前年比（前年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬										
入荷量	112	114	121	98	93	89	111	109	115	102	105	88	104
	116			93			112			98			
価格	72	42	77	107	146	208	196	128	106	110	130	189	121
	62			154			134			137			

(参考2)

○23年産冬レタスの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）

